

第 30 回 東北森林科学会大会

2025 年度(令和 7 年度)

プログラム

と き : 2025 年 11 月 8 日（土）～9 日（日）

ところ : 山形市保健所（霞城セントラル 3 階）

（〒990-8580 山形市城南町一丁目 1 番 1 号）

主 催 東北森林科学会
共 催 一般社団法人 日本森林学会
一般社団法人 日本森林技術協会
後 援 山形県

第 30 回東北森林科学会大会運営委員会

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23

山形大学農学部食料生命環境学科内

E-mail : 25kikaku@tsfs.jp

大会に参加される皆様へ

受付

日時 11月8日（土） 午前9時00分より

場所 山形市保健所（霞城セントラル3階）大会議室

事前に参加費、懇親会費をお振り込み頂いていない方は、受付時にお支払いください。なお、今回の大会では要旨集はPDFのみでの発行となります。プログラムについては、簡易印刷したものを当日配布します。

大会参加費（当日）	2,000円（一般）、500円（学生会員）
-----------	-----------------------

総会

日時 11月8日（土） 15:00-16:00

場所 山形市保健所（霞城セントラル3階）視聴覚室

懇親会

日時 11月8日（土） 18:00-20:00

場所 ヤマコーホール「山交ビル7階」

編集委員会

日時 11月8日（土） 9:30-10:30

場所 山形市保健所（霞城セントラル3階）ふれあいの間

※畳の和室です。座布団使用が難しい方は事前にご連絡ください

理事会

日時 11月8日（土） 10:30-12:00

場所 山形市保健所（霞城セントラル3階）ふれあいの間

※畳の和室です。座布団使用が難しい方は事前にご連絡ください

昼食、宿泊等について

昼食及び宿泊につきましては、各自でご対応いただきますようお願い致します。霞城セントラルには駐車場はありますが、学会参加者用の駐車スペースを確保していません。また、クローケ等は準備しておりませんので手荷物は各自で管理をお願いします。

学生優秀発表賞

学生優秀発表賞（学生ポスター賞）は、学生が発表する11月8日のポスターセッションより選考し、同日の総会にて受賞者が発表されます。

新型コロナウイルス対策

発熱や体調不良の場合は来場をご遠慮いただくようにお願いします。

大会日程

	11月8日(土)	11月9日(日)
8:30		
9:00		
9:30	受付	
10:00	ポスター準備 編集委員会	ポスター準備
10:30		
11:00		ポスター セッション2日目
11:30	ポスター セッション1日目	
12:00		
12:30		
13:00		ポスター回収
13:30		
14:00		口頭発表
14:30		
15:00		
15:30		東北森林科学会 総会
16:00		
16:30		特別企画②
17:00		
17:30		
18:00		
18:30		
19:00		懇親会
19:30		
20:00		

30周年特別企画

■特別企画① 11月8日（土）13:00-15:00 山形市保健所（霞城セントラル3階）視聴覚室

テーマ「これからの森林・林業技術者の育成をめぐって」

コーディネーター 東北農林専門職大学 堀靖人

趣旨：森林資源の充実、木材貿易を取り巻く環境の変化、国際的な課題における森林、林業の位置づけの変化に伴い、森林、林業に関わる技術者や人材に求められる技術や技能も変化してきている。それにも関わらず、国立大学においては学部の再編により林学関係の科目が縮小傾向にあり、産業系の高等学校においても森林・林業教育が縮小傾向にある。その一方で、近年、各都道府県による林業系の大学校や林業アカデミーの開設が相次いでいる。さらに、農林系の専門職大学も静岡県と山形県で新設された。

本企画では、森林・林業教育の前線で活躍する方々から、それぞれ教育機関が目指す人材像、技術者像、教育の現状と課題を報告していただく。また、コメンテータからそうした人材、技術者を受け入れる側からの視点で意見をいただく。東北森林科学会では、これまで人材、技術者育成に関わる議論を十分に行ってきてこなかったことから、学会や林業関係者が林業技術者の育成に向けて連携を図るための足掛かりにするものである。

I 教育事例報告

① 国立大学農学部から

「大学における林業技術者教育の現状－岩手大学の取り組み－」

岩手大学 農学部 地域環境学科 森林科学コース 伊藤 幸男

② 専門職大学から

「東北農林専門職大学の開学と森林業技術者の育成」

東北農林専門職大学 森林業経営学科 上野 満

③ 林業大学校から

「めざせ!! 林業のトップランナー 秋田林業大学校の取組について」

秋田県林業研究研修センター 研究普及指導室 成田 義人

④ 農林高等学校から

「農林高校における森林・林業教育の現状～宮城県大河原産業高校の取り組み～」

宮城県立大河原産業高校 環境科学科 森林類型 大和 知朗

II ディスカッション

・コーディネータ：東北農林専門職大学 教授 堀 靖人

・コメンテータ：山形県森ノミクス推進課 課長 笠井 俊哉

■特別企画② 11月8日（土）16:00-17:00 山形市保健所（霞城セントラル3階）視聴覚室

テーマ「30回記念特別座談会～東北森林科学会のはじまりとこれから～」

東北森林科学会大会30周年を記念して、東北森林科学会設立の当時を振り返る。そのうえで、これから学会大会や学会誌に期待することについて、会場にいる会員のみなさんとともに座談会形式で意見交換したい。

●話題提供

林田光祐（山形大）・比屋根哲（岩手大）

●座談会

パネリスト：林田光祐（山形大）・比屋根哲（岩手大）・成松眞樹（岩手県林業技術センター）・
中村克典（森林総研東北）・山本信次（岩手大）・芦谷竜矢（山形大）

テーマ別セッション

■ 11月9日（日）9:00-11:30 山形市保健所（霞城セントラル3階）視聴覚室

東北地域におけるシラカンバ林の再生

コーディネーター：酒井 敦（森林総合研究所・東北支所）

岩手県久慈市の平庭高原には本州最大規模のシラカンバ林が広がっており観光資源にもなっているが、近年高齢化による衰退が危惧されている。森林総合研究所と岩手大学では地元からの要望を受け、皆伐と天然下種更新によるシラカンバの再生に取り組んでいるが、カンバ林更新の知見が集まっている北海道と異なりカンバ林の更新について技術的な課題が多く残されている。本テーマ別セッションでは、本州のシラカンバ林の結実豊凶パターン、皆伐による土砂移動量の変化、実生や萌芽によるシラカンバの更新可能性、それらの知見を元にしたシラカンバ林再生事業プランの策定、伐採により生じる広葉樹材の利用等について報告し、東北地域のシラカンバ林の再生に向けた議論をおこなう。

●趣旨説明（9:00～9:15）

酒井敦（森林総合研究所東北支所）

●話題提供（9:15～11:00）

1 平庭高原におけるシラカンバ種子の落下数と充実率

野口麻穂子・酒井敦・齋藤智之・澤田佳美・直江将司（森林総研東北）・
山崎遙・真坂一彦（岩手大）

2 平庭高原の搔き起こし地におけるシラカンバの更新状況

山崎遙・小竹彪吾（岩手大）・野口麻穂子・齋藤智之・澤田佳美（森林総研東北）

3 平庭シラカンバ林における伐採後の根株萌芽の発生

真坂一彦・山崎 遥（岩手大）・小野文香（横浜植木株式会社）・
野口麻穂子（森林総研東北）

4 平庭高原シラカンバ更新試験地の土壤特性

木田仁廣・延廣竜彦・小野賢二（森林総研東北）

5 平庭高原のシラカンバ天然更新を目的とした施業が土砂移動に及ぼす影響

延廣竜彦（森林総研東北）

6 平庭高原におけるササの分布と伐採前ササ駆除

齋藤智之・松浦俊也・酒井敦（森林総研東北）

7 平庭高原シラカンバ林の分布特徴と伐採計画策定

松浦俊也・酒井敦・澤田佳美（森林総研東北）・小谷英司（森林総研）

●総合討論・コメント（11:00～11:20）

ポスターセッション

セッション開始時刻までに、ご自分の番号（下記参照）のパネルにポスターを貼ってください。今年度は1日目および2日目の両日発表が可能です。パネルは「幅120cm、高さ180cm（縦長）」です。特にポスター賞応募の発表者はコアタイムにポスター前で説明し、質疑を受けて下さい。

ポスターセッション1日目

11月8日（土）10:30-13:00 山形市保健所（霞城セントラル3階）大会議室

9:30-10:30 ポスター準備

12:00-13:00 コアタイム

ポスターセッション2日目

11月9日（日）10:00-12:30 山形市保健所（霞城セントラル3階）大会議室

9:00-10:00 ポスター準備（2日目から参加の発表者）

12:30-13:30 ポスター回収

1* 森林への太陽光発電設置の現状と課題-福島市先達山を事例として-

日下智貴(福島大)・藤野正也(福島大)

2* ヤブツバキ天然林における光環境とツバキの生育との関係

相川ゆきえ(岩手大)・真坂一彦(岩手大学)

3* ブナの開芽時期が結実豊凶に与える影響

堀文哉(弘前大)・杉本咲(東北森林管理局)・石田清(弘前大)

4* 鬼剣舞保存会の構成員数変化の要因

伊藤優汰・林雅秀・棄原良樹(山形大)

5* 自然攪乱が冷温帯針広混交林の樹種多様性に与える影響

宮澤優輔・真坂一彦(岩手大)・杉田久志(元森林総研)・

野口麻穂子・澤田佳美(森林総研東北)・高橋利彦(木工舎「ゆい」)

6* マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木の抽出成分分析

今関菜津与・芦谷竜矢・斎藤正一(山形大)・

宮下智弘・新野亜依(山形県森林研究研修センター)

7* 鶴岡市の民有林におけるタムシバの資源量～タムシバのサイズ・分布・精油產生量の予測～

横倉綾香・斎藤正一・芦谷竜矢(山形大)

8* キノコ揮発成分の昆虫誘引効果における濃度依存性の屋外試験での検証

島津桃子・斎藤正一・芦谷竜矢(山形大)

9 2 時期の LiDAR データを活用したスギ地位指数分布図の作成-高齢級を考慮した取り組み-

杉本彩(岩手大)・今田洋一(山形県森林研究研修センター)・

當山啓介・斎藤 仁志(岩手大)

10 直接汚染木および萌芽更新木におけるコナラ幹 ^{137}Cs 濃度の簡易推定手法について

小川秀樹(福島県林業研究センター)・櫻井哲史(農業総合センター)

- 11 被覆肥料とバイオ炭の混合施用がシロダモコンテナ苗の生長に及ぼす影響
新関郁美・佐藤央基・佐野哲也(東北工業大)
- 12 被覆肥料とバイオ炭の混合施用がカシ類 2 種のコンテナ苗の生長に及ぼす影響
大槻美涼・宍戸響太・成澤 旭・佐野哲也(東北工業大)
- 13 原木特性が広葉樹材の落札価格に与える影響の度合
新野雄大・千葉翔・中村人史(山形県森林研究研修センター)
- 14 鶴岡市のスギ林内におけるオオバクロモジの資源量 IV
～スギ林内のオオバクロモジのぼう芽更新状況と抽出成分～
斎藤正一(山形大)・佐々木瑠偉(岩手大)・芦谷竜矢・相蘇春菜(山形大)
- 15 秋田県の海岸林におけるクロマツを指標とした広葉樹の生育予測
新田響平(秋田県林業研究研修センター)
- 16 ブナ二次林間伐試験地の 100 年生までの成長経過
和田覚・新田響平・澤田智志(秋田県林業研究研修センター)
- 17 培養時の高温が菌床シイタケの子実体の発生に及ぼす影響
村田政穂・久保智裕・菅原冬樹(秋田県林業研究研修センター)
- 18 低コスト栽培を目指したアラゲキクラゲ菌床の炭酸カルシウム濃度の検討
久保智裕・村田政穂・菅原冬樹(秋田県林業研究研修センター)
- 19 山形県におけるスギ下刈り要否の判断基準の検討
藤城彰人(山形県森林研究研修センター)
- 20 クロマツ BAP 処理の時期別クローン別効果の年度間差の検討
宮本尚子(林木育種センター東北育種場)・田中功二(元・青森県産業技術センター林業研究所)
- 21 スマートセンシングを活用したスギ挿し木コンテナ苗生産
千葉信隆・佐藤博文(秋田県林業研究研修センター)
- 22 ハタケシメジの交配育種と選抜試験
玉田克志・目黒渚(宮城県林業技術総合センター)
- 23 コシアブラ栽培におけるカリウム・マンガン施肥の影響
今埜実希(宮城県林業技術総合センター)・目黒渚(宮城県林業技術総合センター)・
小倉振一郎(東北大)・玉田克志(宮城県林業技術総合センター)
- 24 森吉山麓におけるブナ植栽木の成長と天然更新広葉樹の影響
沼宮内信之(秋田県林業研究研修センター)・菅原悠樹(秋田県平鹿地域振興局)・
長岐昭彦(秋田県自然保護課)・和田 覚(秋田県林業研究研修センター)
- 25 コナラ萌芽枝の放射性物質濃度測定結果に関する報告(4)
目黒渚・玉田克志(宮城県林業技術総合センター)
- 26 ワラビ幼葉の大きさと採取時期が ^{137}Cs 濃度に及ぼす影響
小林勇介・小川秀樹(福島県林業研究センター)
- 27 庄内海岸クロマツ林の広葉樹侵入状況と樹種転換の可能性
渡邊潔(山形県森林研究研修センター)

- 28 クロモジ採取区分の違いが精油抽出にかかる作業効率に与える影響について
岡野達也・小川秀樹・齋藤直彦・小野武彦(福島県林業研究センター)
- 29 高解像度衛星画像から算出した NDVI による海岸防災林マツの生育状況把握
大竹由起(福島県林業研究センター)・齋藤直彦(福島県会津農林事務所)
- 30 スギ人工林における針広混交林化整備事業後の広葉樹定着の長期的変化
福沢朋子・新田響平・和田覚(秋田県林業研究研修センター)
- 31 大船渡市林野火災後の森林土壤の浸透能分布と空間的不均一性
岡本隆・萩野裕章・延廣竜彦(森林総研東北)・
大澤光(森林総研北海道)・玉井幸治(森林総研)
- 32 山形県におけるクロマツ海岸林の樹種転換-分布把握と要因解析に基づくスギの可能性-
大友健慎・千葉翔(山形県森林研究研修センター)
- 33 山形県におけるスギ人工林の地位指数曲線の改訂
千葉翔(山形県森林研究研修センター)
- 34 間伐が年最大・最小日流出量(無雪期)に及ぼす影響—長坂試験地での事例—
田村浩喜(秋田県林業研究センター)・野口正二(森林総研所東北)
- 35 飛砂量と海岸林の形態的特徴の関係-湘南海岸砂防林を例にした考察-
萩野裕章(森林総研東北)

* 学生優秀発表賞（学生ポスター賞）の審査対象ポスター

口頭発表

11月9日（日）12:00-13:30 山形市保健所（霞城セントラル3階）視聴覚室

口頭発表は1題15分（発表12分、質疑応答3分）厳守をお願いします。発表者は、次の発表の座長を務めて下さい。配付資料のある発表者は御自身で必要枚数をご準備下さい。USBフラッシュメモリ等に保存したPowerPoint用ファイルを、当日口頭発表開始前までに会場のパソコンにコピーしてください。なお、会場のパソコンはWindows 11、Power Pointのバージョンは「2019」の予定です。円滑な進行のため、パソコンの持ち込みはお断りいたします。

12:00-12:15 1 山形実験林における気温に基づく降雪量の長期推定

阿部俊夫(森林総研)

12:15-12:30 2 山形県における近年のツキノワグマ剥被害発生傾向

古澤優佳(東北農林専門職大)・千葉翔(山形県森林研究研修センター)

12:30-12:45 3 ブナおよびカラマツ林土壤中の α ピネン濃度

森下智陽(森林総研東北)・新田響平(秋田県林業研究研修センター)・
安田幸生・深山貴文(森林総研)

12:45-13:00 4 被害把握の省力化と精度向上を目指した松くい虫被害木調査手法の開発

高橋一太(宮城県林業技術総合センター)

13:00-13:15 5 ニホンジカによる幼齢カラマツの食害と回復過程

酒井敦・高橋裕史(森林総研東北)・相川拓也(森林総研)

13:15-13:30 6 ワラビ系統・栽培地の違いによる粘りと味覚の差異

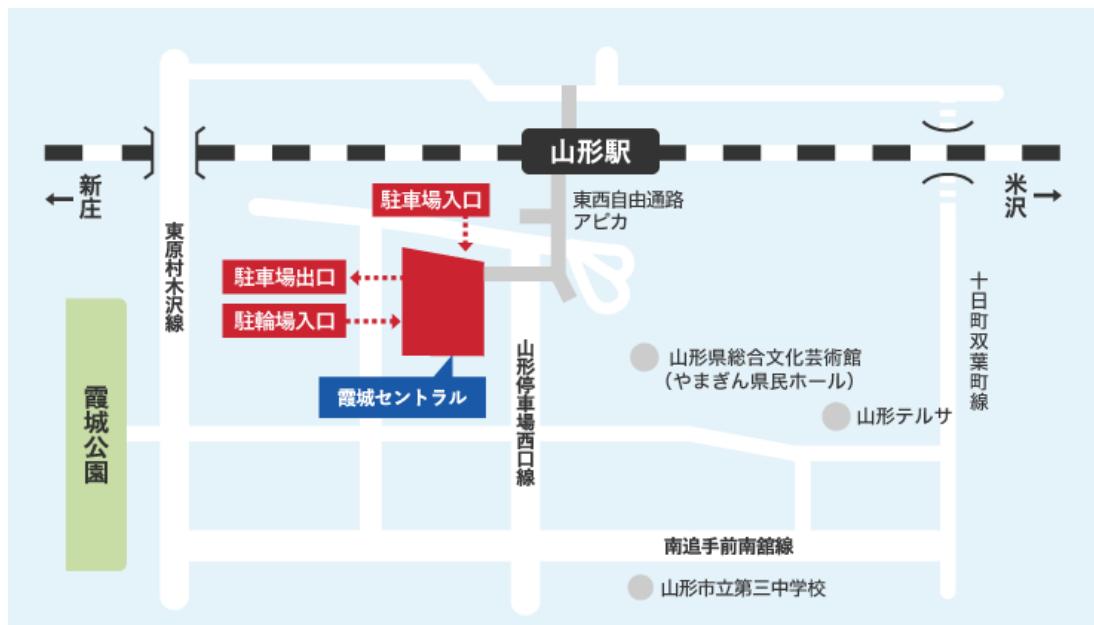
中村人史(山形県森林研究研修センター)・古澤優佳(東北農林専門職大)

会場等の案内

霞城セントラルには有料の駐車場がありますが、事務局では大会参加者のための駐車スペースは確保しておりません。会場へのアクセスは、公共交通機関等をご利用ください。
宿泊については各自ご対応ください。

【霞城セントラル】

JR 山形駅から徒歩 5 分



大会に関する問い合わせ先

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23 山形大学農学部食料生命環境学科内
第 30 回東北森林科学会大会運営委員会
事務局: 吉村 謙一
E-mail: 25kikaku@tsfs.jp

第 30 回東北森林科学会大会運営委員会
芦谷竜矢 (山形大学農学部 : 委員長), 早乙女明 (山形県森林研究研修センター),
林雅秀 (山形大学農学部), 吉村謙一 (山形大学農学部 : 事務局)